

# 恵みと真理のニュース



2014年7月の二次 恵みと真理教会

韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養5洞 458-5 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net



## 【証】 日々信仰で勝利し今と近づく世に

主が見るとき美しい愛の人生を生きるように導いてください。

私が生まれる前から母は恵みと真理教会に通い熱心にイエス様を信じ教会と聖徒を仕えました。私は母の祈りと主の祝福の中で生まれ教会の中で主の導きで安全に保護されながら神様の愛で成長することが出来ました。子供の頃から日曜日は当たり前のように教会に行く日としました。中学校3年生の時冬の修練会で聖霊洗礼を受けました。聖霊の恵みを体験して神様の愛を心から深く悟りました。修練会を通して私の信仰生活のターニングポイントになり熱心に礼拝を捧げ教会を仕えながら福音を伝える生活をするようになりました。青年になっても神様の愛と聖霊の感動を受けた人生を生きながら高等部の教師として学生達を仕えています。

大学に入学したばかりで大学生生活の自由を満喫する頃、まだ信仰が弱くて神聖な知識が足りない時にふっと私の信仰生活に疑問が芽生えました。今までは聞きたいことや疑問があるならすぐ教役者と先輩または友達に聞いたり相談したりして解決しましたが、今回は自ら答えを得るため長い間心の混乱が続きました。神様はいつでも私達と共にいるとおっしゃるので私も生活の中で直接に神様と話したいと思いました。

神様はアダムとエバに直接お話しして、罪を犯したカインと義人のノアにも直接お話ししイスラエルの族長であるアブラハムとイサクとヤコブにもまたモーセとヨシュアを初め預言者にもお話しただけでなく天使を通して使徒達とマリアとヨセブにお話しした神様の声を私も直接聞きたいと強く願いました。

しかし、そのような経験をしなくなると神様に対して否定的に考えるようになりました。

そうする中である日、切に祈った後寝ましたが夢の中で神様は私を戒め、神聖な悟りを与えてくださいました。私は端子上に乗って高いところまで上ろうとしたのですが、誰かの強い力で下に連れて引き下ろすような奇異な夢をみました。汗をかきながら夢からさめました。起きて、その場で膝まずいて自分の高慢を退け謙遜な者に恵みを与える神様に悔い改めました。そしてまもなく主日に当会牧師から“おっしゃる神様”と言

う題目の説教を聴き恵みを受けました。神様は私の信仰を新たにしてくださいました。その後から以前よりもっと強い信仰と従順する姿勢で信仰するようになりました。

生活が忙しく人間関係で倒れそうな時、どのように行くべきか悩んでいる時に神様の御言葉で神聖な慰めと平安を得て神様の明確な導きを感じることができました。心が切ない時、礼拝に参席して真心で説教を聴き、朝目がさめるとすぐ祈り、寝る前に聖書の御言葉を黙想しながら神様の声を聞き共に行くエノクのように享受するようになりました。神様は今日も私と共におられることを御言葉で悟りました。

“神は、かつて預言者たちによって、多くのかたちで、また多くのしかたで先祖に語られたが この終わりの時代には、御子によってわたしたちに語られました。神は、この御子を万物の相続者と定め、また、御子によって世界を創造されました。御子は、神の栄光の反映であり、神の本質の完全な現れであって、万物を御自分の力ある言葉によって支えておられますが、人々の罪を清められた後、天の高い所におられる大なる方の右の座にお着きになりました。

(ヘブライ人への手紙 1 : 1~3)

“では、何とされているのだろうか。「御言葉はあなたの近くにあり、あなたの口、あなたの心にある。」これは、わたしたちが宣べ伝えている信仰の言葉なのです。”(ローマ書 10 : 8)

幼い頃から私の一番の祈り課題は主日に全ての家族が共に賛美し教会に行く事でした。父は教会と信仰生活については否定的で母と私と弟だけ教会に行きました。隣り人との救いのためいつも力を使いましたが実際に家族を伝道することも大変でやさしい事ではありませんでした。普通には人々からうらやましがられる仲良い家庭ですが主日の朝になると母と父の間で言い争いが多くなり、ついある日朝早く家を出て席を外すようになりました。私は主日ごとにこのような状況になる事がとても辛かったです。そうするうちに月日が経って軍隊に入隊しました。軍で勤務しながら私は父の為に休まず祈ってよく父に長い手紙を書いて送りました。

“お父さん、軍隊にいる息子の願いは一つです。それは次の休暇には父と教会に共に行って礼拝をささげる事です。”その後まもなく父が教会に行こうと決心したという返事をもらいました。いよいよ私の休暇の時すべての家族が共に神様に喜びと感激の礼拝を捧げました。母と私の兄弟達が10年かけて真実に神様の御言葉に委ね続けて神様に求め祈った事が成し遂げられました。

“求めなさい。そうすれば、与えられる。探しなさい。そうすれば、見つかる。門をたたきなさい。そうすれば、開かれる。だれでも、求める者は受け、探す者は見つけ、門をたたく者には開かれる。あなたがたのだけれど、パンを欲しがると自分の子供に、石を与えるだろうか。魚を欲しがると、蛇を与えるだろうか。このように、あなたがたは悪い者でありながらも、自分の子供には良い物を与えることを知っている。まして、あなたがたの天の父は、求める者に良い物をくださるにちがいない。”(マタイの福音書 7 : 7~11) ハレルヤ!

私の父は男性奉仕連合会で本日も熱心に教会と聖徒を仕え献身しています。家で父の賛美歌が響き、家族の中で対話する場では聖書の御言葉が大事な主題になり家庭の礼拝を捧げるたびに神様の恵みと愛が満たされることを悟ります。それで私は不信家族によって今日も大変な信仰生活をしている兄弟姉妹を見ながら落段しないで忍耐しながら休まずに祈って勇気を与えます。たとえ今まで短い人生でしたが私が人生を振り替えると全ての事が神様の恵みでした。私と家族を救ってくださり共に礼拝し捧げて生きるように導いてくださった神様に感謝を捧げます。

この若い時に心を世に奪われなく、ただ神様を畏れ委ねて生きるように導く神様、大学の進学から軍隊、就職、結婚など様々な選択をする青年の時、神様に祈り神様の思いを分別して知恵ある者のように行動するように助ける神様を賛美します。

日々信仰で勝利し信仰の精兵で今と近づいて来る新しい世代にもっと主が見る時に美しく清く生きる事を願います。神様の道具として尊く用いられる事を期待し全ての栄光を神様に捧げます。



## 【信仰コラム】

## 忘れないと、6・25 戦争とその教訓

もしあなたが、あなたの神、主の声によく聞き従い、わたしが、きょう、命じるすべての戒めを守り行うならば、あなたの神、主はあなたを地のもろもろの国民の上に立たせられるであろう。(申命記 28:1~7)

6・25 戦争が勃発し 64 年という年月が流れました。しかし、155 マイル休戦線の鉄条網を置いて国土は依然として二つに割れており、銃口を向け合っている緊張状態が持続しています。天安艦沈没事件やソウル火の海云々する北朝鮮当局の脅迫がまだ 6・25 戦争が終わってはず、休戦状態にあることを実感させてくれます。北朝鮮の無謀な挑発を予防して平和を実現して出すためには力をベースにした和解を追求しなければなりません。この力は卓越した武装と強い精神力と経済力です。そして、その上に神様の面倒を見ることです。

解放後、ソ連の支援で軍事力を増強して、南侵の野心を燃やしながら、虎視眈々と機会を伺っていた金日成は 1950 年 6 月 25 日、ソ連製戦車を前面に押し出して南侵を開始しました。わずか 3 日ぶりにソウルが陥落して国の運命が風前の灯のようになりました。米国によって国連安全保障理事会が緊急招集されてマッカーサー將軍を総司令官として、16 カ国の軍隊で構成された国連軍の派遣が決定されました。戦争の状況はひたひたと降りてくる北朝鮮軍の南進に私

たちが洛東江(ナクトンガン)戦線を最後の防御戦としてやっと持ちこたえているくらいです。。このとき李承晩(イ・スンマン)大統領は慶尚南道の知事で牧師たちを呼んでお祈りをお願いし、神様が唱えた主の種の祈りを聞いてマッカーサー司令官の心に仁川(インチョン)上陸作戦というアイデアをくれました。それで、洛東江(ナクトンガン)戦線で総反撃戦を展開することと時を同じくして、米国と韓国海兵隊が 9 月 15 日未明に月尾島に奇襲上陸にして仁川とソウルを奪還し、北上し続け、豆満江(トゥマンガン)一帯まで進撃するので、統一を目前にしました。ところが、中国共産軍の介入によって前進と後退を繰り返して、1953 年の休戦協定をして現在のような休戦ラインが引かれようになったし、これまで持続されています。

韓国政府は平和統一のために太陽政策も使ってみたが、結局は北朝鮮が原子爆弾を製造して軍事力を育てるのに役を与えてばかり仕儀となりました。北朝鮮は依然として武力で赤化統一しようとする野心を捨てないまま、核兵器を作ったミサイルを発射し、天安艦を爆沈し、韓国の将兵の貴重な命を奪う蛮行を躊躇せずいます。日増しに韓国と北朝鮮との格差はさらに膨らんでいます。北朝鮮には神から供給される知恵とアイデアがないからです。韓国では聖職者や信者らが神様の前に涙で悔悟して神様の矜恤と支援していただくことを祈念し、戦争が襲われた廃墟の上に教会を建てました。神様が哀れに思っ

て助けの手をくれました。わずかに半世紀も過ぎてないので経済協力開発機構(OECD)国家の隊列に入って世界貿易規模が 10 位圏に達し、救済された国が救済する国になるという前代未聞の記録を立てました。神様は教会を建てて福音を伝播する国と民族を繁栄させます。北朝鮮が、豊かな道は難しく、遠くにいません。信仰の自由を持つようにしなければなりません。福音を自由に伝えられるようにして思う存分聖書を読ませてキリストの中で変化した人、すぐになっ

た人が多い社会になるようにしなければなりません。これが問題解決の糸口であり、豊かになる近道です。北朝鮮同胞らが我々とともに、平和と繁栄を謳歌する日が来るようにするためにはその日が来るまで 6・25 戦争を想起しながら、子供らに聞かせなければならず、その教訓を反芻します。北朝鮮の赤化統一の野心に対する警戒を疎かにしてはいけません。集まればお祈りしてばらばらになれば、伝道し、国内外で教会を建てて行かなければなりません。北朝鮮同胞が自由に福音を聞くことができるようになって福音化が行われて福音で繁栄することになり、福音に統一される日が来ることを祈って力を注がなければなりません。苦境に立たされた時助けてくれた国と国民にそして、参戦勇士らに様々な形で監査恩返ししなければなりません。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム『緑の牧場、清い川』本の語り中」

## こんな人は あやまちにおちいることはない



恵みと真理教会 チョヨンモク 牧師

信仰生活をしている途中おちいる人々がいます。聖書でおちいるという用語は皆信仰に係わって使われています。おちいるというのは結局信仰が損傷をかぶるとか喪失されることを意味します。だからおちいるようにする原因提供者やおちいるようになる者は皆悲劇の主人公です。一方におちいるようになった人をつかんで立ててくれる人は福があります。そしてどんな場合にもおちいるしない人は真実でさいわいである人です。信仰を持つと思うとか信仰生活をする人がおちいるようになる原因は何ですか？どのようにするとおちいるしないこともありますか？こんな質問に対してその答を調べるようにします。

### 第一、救世主に対して歪曲された観念を持つのがおちいる原因です。

ユダヤ人たちは律法と預言書を通じて救世主すなわちメシアがいらっしゃるということが分かって待ちこがれました。彼らが待ちこがれるメシアすなわちイエス様がいらっしゃいました。ところで奇妙にもユダヤ人たちはイエス様を排斥しました。その理由は彼らの望むメシアではなかったからです。彼らは政治的なメシアがいらっしゃることを期待しました。しかし聖書にはメシアがいらっしゃって苦難を受けて人類の罪をあがないことが予言されました。予言者イザヤはこれに対して予言するのを“しかし彼はわれわれのとがのために傷つけられ、われわれの不義のためにくだかれたのだ。彼はみずからこらしめを受けて、われわれに平安を与え、その打たれた傷によって、われわれはいやされたのだ。われわれはみな羊のように迷って、おのおの自分の道に向かって行った。主はわれわれすべての者の不義を、彼の上におかれた。”(イザヤ書、53:5,6)と言いました。ユダヤ人たちはこのような預言書を読みながらも人間の罪をあがないしようと世の中へいらっしゃって苦難を受けるメシアに対しては故意に死にました。それによってメシアであるイエス様を排斥しました。メシアに対して誤った観念を持てばこんな事が生じます。

### 第二、神様の時と方法を思うことができずに自分の予想にとらわれすぎるのがおちいる原因になります。

バプテスマのヨハネがヨダン川で悔い改めるようにする洗礼を施したが多くの人が来て洗礼を受けました。ヘロッド王がバプテスマのヨハネをつかまえて監獄に閉じこめました。彼は監獄で自分の弟子たちを通じてキリストが行うことに関して聞きました。イエス様は人々に恵みを施してばかりなさって審判しなかったです。するとバプテスマのヨハネが弟子たちをイエス様に送って“「わたしたちはバプテスマのヨハネからの使ですが、『きたるべきかた』はあなたなのですか、それとも、ほかにだれかを待つべきでしょうか、とヨハネが尋ねています。」”(ルカによる福音書、7:20)と質問しました。バプテスマのヨハネはイエス様がメシアというのが分かっていたがキリストが恵み施

す事といっしょに審判なさる仕事をなさることを期待しました。バプテスマのヨハネは罪人たちに恵みと愛を施すために初臨なさるイエス様とこの世を審判なさるために再臨なさるイエス様の間の時間的間隔が分からなかったのです。イエス様はバプテスマのヨハネの弟子たちに答えるのを“「行って、あなたがたが見聞きしたことを、ヨハネに報告しなさい。盲人は見え、足なえは歩き、らい病人はきよまり、耳しいは聞え、死人は生きかえり、貧しい人々は福音を聞かされている。(ルカによる福音書、7:22)」”しました。

審判なさる仕事をしにいらっしやったのではないということを知らせてくださいました。そしておっしゃるのを“わたしにつまずかない者は、さいわいである。”しました。イエス様の再臨に関しても予言が成就する日と方法に対してすぎるほどなずむことがあってはいけません。時限付き終末論者たちがキリストが再臨なさる時が分かるとなずんでいる途中つまずくようになる理由も神様が働く時と方法より自分の欲求と予想を先に立たせるからです。神様の時と方法を思わないで自分の予想にとらわれすぎるのがつまずく原因になるということ念頭に留めおかなければなりません。

### 第三、自分の経験と知識の限界の中でイエス様を理解しようと思うことがおちいる原因です。

キリストが公生涯を始める時自分が育った同里であるナザレを訪問しました。イエスキリストが安息日に会堂から聖書を読んで“今日この聖書があなたがたの聞く耳に成就した。”とおっしゃりながら教えました。すべての人がイエス様のありがたい言葉に驚きながら言うのを“この人がヨセフの息子ではないか?”しました。ナザレ人々がメシアに対する聖書の予言を正しく分かったらイエス様がメシアであるが分かるようになったはずですが。彼らがイエス様の言葉を聞いておちいるようになったことはイエスキリストをただすぐれた人だけで分かったからです。イエス様を立派な宗教家、思想家では認めるがイエス様が神聖を持って童貞女の身で生むということは受け入れることができない人々が多いです。これは人間の経験と知識の限界の中でばかりイエス様を理解しようと思うからです。“生れながらの人は、神の御霊の賜物を受けられない。それは彼には愚かなものだからである。また、御霊によって判断されるべきであるから、彼はそれを理解することができない。”(コリント人への第一の手紙、2:14)と言いました。私たち罪を担当して十字架にくぎつけられて死んで墓で復活した世の中にまたいらっしやるイエスキリストだけが唯一の救世主だという真理が差し支え石になる人はいつかはおちいるようになります。

### 第四、神様の言葉を理解した後信じようと思えばいつかはおちいるようになります。

イエスキリストが従う群れにまたいうのに“わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者には、永遠の命があり、わたしはその人を終りの日によりみがえらせるであろう。

わたしの肉はまことの食物、わたしの血はまことの飲み物である。”(ヨハネによる福音書、6:54,55)と言いました。イエス様の肉を食べ、血を飲むという話はイエスキリストを信じてキリストと連合されることを意味します。弟子たちの中で一部が“この言葉は難しい。誰が聞くことができるのか”と露骨的な拒絶の反応を表示しました。キリストが彼らに“この言葉

があなたがたにかかって倒れるようにするのか?人の子があった所に上がることを見たらああなたがたがどうするのか?”と言いました。するとイエス様を従った人々の中で多い人がイエス様を立ち去ってしまいました。

彼らはイエス様の言葉を自分たちの経験と知識の水準で理解しようと思ったから奥深い真理の言葉を聞くとつまずきました。私たちが神様の言葉に対する時神様の言葉が私たちに要求するのが何やら確かに分らなければなりません。神様の言葉は私たちに理解する前に信仰を要求しています。聖書は創世記から私たちに理解しなさいと言わないで信じなさいと要求します。聖書の最後の場面にキリストが雲に乗ってまたいらっしやいます。私たちはこのような聖書の言葉たちを理解しようと思うのではなくて信仰で受け入れなければなりません。神様の考えは人の思ったより高いから私たちがすべて理解することができないのが当たり前です。神様の言葉は私たちに信仰を要求するから信仰で神様に進まなければなりません。そうではなくて自分の理解の限界の中に泊まる人はいつかはつまずきして倒れるようになります。

### 五番目、イエス様を信じることを肉身の必要を満たすための手段だけで思えばおちいるようになります。

イエス様は公生涯の後半期に入りながら弟子たちにこれから起きる十字架の受難に対して何回も予告しました。イエスキリストがエルサレムに上がる時に12弟子を別に連れておっしゃいました。“見よ、わたしたちはエルサレムへ上って行くが、人の子は祭司長、律法学者たちの手に渡されるであろう。彼らは彼に死刑を宣告し、そして彼をあざけり、むち打ち、十字架につけさせるために、異邦人に引きわたすであろう。そして彼は三日目によみがえるであろう。”(マタイによる福音書、20:18,19)。その時にヤコボとヨハネ二人の兄弟の母がイエス様に来てお辞儀をして“ゼベダイの子らの母が、その子らと一緒にイエスのもとにきてひざまずき、何かをお願いした。そこでイエスは彼女に言われた、「何をしてほしいのか」。彼女は言った、「わたしのこのふたりのむすこが、あなたの御国で、ひとりあなたの右に、ひとり左にすわれるように、お言葉をください。」と請託しました。残り十弟子が聞いてその二人の兄弟に対して憤慨しました。イエスキリストが三度にかけて十字架での死に対して予告したのに弟子たちはその言葉を事実として受け入れることができなかったです。イエス様の12弟子たちはイエス様を自分たちの野心を成す手段と思いました。そうするからカリオテユダはイエス様を売ってしまったし他の弟子たちはイエス様が逮捕すると逃げました。皆がおちいるしました。

しかしイエス様が十字架に釘つけられてから復活した後弟子たちは初めて変化されました。彼ら生の窮極的目的がイエス様を信じて福音を伝えるになりました。その後弟子たちの中に一人もつまずかなかったです。信仰の結局が靈魂の救いにある人は何の事に直面してもつまずかないです。

聖徒の皆さんは罪の赦しことと永生を得て天国に行くことがイエスキリストを信じる目的になってください。イエス様を信じて福音を伝えるのが生の窮極的目的になってください。そんなにすればどんな状況に処してもつまずかないし神様の恵みが常に一緒になさいます。